

はじめに

西山雄二

2015年7月、ジャック・デリダの動物論研究の第一人者Patrick Lloredパトリック・ロレッド氏（リヨン第三大学）を招聘して、連続セミナー「デリダの動物哲学 La philosophie animale de Derrida」が各地で開催された。首都大学東京・傾斜的研究費「日本における「フレンチ・セオリー」の受容と展開」による招聘である。

ロレッド氏はリヨン第三大学講師で、ジャック・デリダの動物論研究の第一人者である。著書に、『ジャック・デリダ——動物性の政治と倫理』（*Jacques Derrida : Politique et éthique de l'animalité*, Sils Maria, 2013）があり、博士論文「動物性のポリティックス——ジャック・デリダの哲学における主権、動物性、脱構築」が刊行予定である。アングロ・サクソン圏と比べるとフランスでは動物倫理の研究は遅れているが、ロレッドはピーター・シンガーやトム・レーガン、ダナ・ハラウェイらの議論を考慮しつつ、デリダの動物論を考察できる点で貴重な存在となっている。

2014年、日本ではちょうど『動物を追う、ゆえに私は（動物で）ある』『獣と主権者』の日本語訳が刊行されたが、ロレッド氏とともに、デリダの動物論の可能性をめぐって、ベンヤミン、ドゥルーズ、レヴィナスとの比較を通じて、政治、哲学、倫理といった分野で議論することができた。連続講演の詳細は以下の通りである。

2015年7月7日 早稲田大学

「供犠、暴力、正義の可能性——デリダがベンヤミンに負うもの」

司会＝藤本一勇（早稲田大学） コメント＝鶴飼哲（一橋大学）

主催＝早稲田大学文学学術院 表象・メディア論系、脱構築研究会

2015年7月8日 首都大学東京

「死、動物そして触覚——デリダによるハイデガーの動物の脱構築」

司会 = 西山雄二（首都大学東京）主催 = 首都大学東京・傾斜的研究費「日本における「フレンチ・セオリー」の受容と展開」

2015年7月9日 大阪大学（吹田）

「動物は人間のように愚かであることができるか——デリダとドゥルーズをめぐる「超越論的愚かさ」について」

司会 = 檜垣立哉（大阪大学）主催 = 科研費（基盤B）「ドゥルーズ研究の国際拠点の形成」

2015年7月10日 立命館大学

「人間の倫理は供犠的か——倫理の脱構築をめぐるデリダとレヴィナスの論争」

司会 = 加國尚志（立命館大学）、亀井大輔（立命館大学）

主催 = 科研費（基盤C）「遺稿調査にもとづくジャック・デリダの脱構築思想の生成史の解明」、立命館大学間文化現象学研究センター

なお、早稲田大学での講演原稿は、吉松覚訳で『思想』2015年12月号に掲載され、大阪大学の講演原稿は、西山雄二・小川歩人訳で『ドゥルーズ 没後20年新たなる転回』、河出書房新社、2015年に掲載された。